

第2章 みどりを取り巻く現状と課題

1 社会情勢の変化

少子高齢化や人口減少の進行、価値観の多様化、地球環境問題など、様々な社会的課題がある中で、みどりは、温室効果ガスの吸収など環境面に資する機能、健康活動の場やコミュニティ醸成の場など社会面に資する機能、観光振興など経済面に資する機能など、多様な機能を有していることから、こうした機能をまちづくりに活かしていくことなどが期待されています。

2 本市の現状

本市はこれまで、都市公園の整備や、市民協働による帯広の森づくりなど、みどり豊かなまちづくりをすすめてきた結果、現計画が掲げる目標中、「緑被率」は目標値を達成し、「市民1人当たりの公園面積」と「緑地率」は目標に向かって順調に推移している一方で、「植樹本数」は公共事業の抑制に伴う緑化の減少等により順調に推移していない現状にあります。

また、管理のための財源的制約等がある中、既存施設の老朽化や樹木の成長による危険木化への対応をはじめ、良好な自然環境や美しい景観の保全等が必要となります。

3 市民の意見

(1) 本市のみどりに関する市民アンケート結果

計画の策定に際し実施した市民アンケートでは、次のような傾向がみられます。

○公園について

市内全体の公園数は「ちょうど良い」が62.6%と最も多く、一定程度の満足を得られています。

最近の公園利用については、「利用していない」が26.5%あり、公園を利用していない市民が一定程度存在することが伺えます。

○代表的な公園の施設整備について

市内の代表的な公園に求める施設は、「休憩用のベンチやあずまや」が22.7%、「カフェなどの飲食施設」が18.3%と多く、主に50歳代以上は休憩施設を、主に20歳代から50歳代までは飲食施設を多く求める傾向にあり、年齢層によりニーズの違いがみられます。



○公園樹木・街路樹・歩道の植樹ますなどの管理について

公園樹木の管理中、優先すべきこととしては、「枯れ木、老木、生育不良の樹木の更新」が17.9%、「枯れ葉・落ち葉の清掃」が13.7%、また、管理の有効な取り組みとしては、「清掃などのボランティア活動の促進」が31.4%、「市民協働による草刈、除草などの強化」が21.0%となっています。

街路樹の管理中、優先すべきこととしては、「高木の剪定」が16.8%、「支障となる高木の伐採」が16.8%、「枯れ葉・落ち葉の清掃」が14.3%、また、管理の有効な取り組みとしては、「歩道の植樹ますや樹木の配置の見直し（もしくは廃止）により、管理の質を高める」が34.9%、「清掃などのボランティア活動の促進」が25.6%となっています。

こうしたことから、多様な管理ニーズに対する柔軟性のある対応や、管理の質を高める取り組みが求められていることが伺えます。

○将来のみどりづくりについて

将来の本市のみどりの方向性について、「年代を問わず誰もが利用しやすい公園やみどりを守り育てる」が23.2%、「子どもが利用しやすい公園やみどりを守り育てる」が14.5%、「みどりを積極的に増やすよりは、今あるみどりを大切に守り育てる」が14.1%となっています。

このことから、誰もが利用しやすい視点のほか、利用者に配慮した公園・みどりづくりが求められていること、また、これまで整備してきた公園をはじめとしたみどりの適正な保全・管理が求められていることが伺えます。

（2）みどりに関わる市民団体等の意見

○公園の利活用について

- ・インスタ映えスポットのPRや、飲食可能なワゴンなど利便性向上のための施設の設置、トイレの良好な管理などの取り組みにより、緑ヶ丘公園などの公園緑地を観光客も含め人が集まる場所にすると良い。
- ・公園の利活用や管理は、企業や学校、様々な市民により、全市的に取り組む必要がある。高齢者には町内会の情報共有機能を活用し、若い世代にはSNSによる拡散を狙うなど、情報発信にも工夫が必要である。
- ・公園とマラソンなど、他分野との連携による活用をすすめることも重要である。
- ・緑ヶ丘公園や帯広の森など様々な施設を有する公園は、施設同士の連携により、魅力づくりや利用促進をすすめていくことが重要である。



○みどりの保全や効能について

- ・みどりや虫、鳥など自然を楽しむ意識を持つには、子どもの頃からの教育が重要である。
- ・街路樹には、音や風、振動を防ぐ機能のほか、震災の際には火災の延焼を防止した実例などもあることから、長所と短所を含めて、市民の理解を深める情報発信が必要である。
- ・生物多様性は、動植物、魚、昆虫など、様々な生物の生態系を生育環境ごと守り次世代に引き継いでいく重要な概念なので、分かりやすく理解しやすい表現での周知が必要である。

○帯広の森について

- ・帯広の森の理念に基づく森づくりのため、森の育成管理の強化が必要である。
「帯広の森・はぐくむ」の機能充実や役割について周知が必要である。

○計画全般について

- ・市と市民の役割の明確化が必要である。
- ・緑化推進が本市のまちづくりに欠かせないことを市民に理解・共感・感動してもらい、市民の力を結集することが必要である。

(3) 子育て関係者の意見

- ・小さな子ども連れで公園緑地を訪れる際に特に重視するのは、遊具の充実度や、夏季に安全に水遊びができる噴水等の設備、冬季にソリ滑りが楽しめる小高い丘などの環境である。子どもの安全面や衛生面を重視し、道路からある程度距離が離れている公園や、トイレがきれいな公園であることが望ましい。
- ・公園別に、設置されている遊具の種類・サイズ等が分かる写真や新しく設置される遊具の情報、草刈等で公園が利用できない日時等の情報がひと目で簡単に分かると、より公園緑地の利便性が向上する。
- ・公園緑地は、子どもだけではなく親にとっても日常生活から離れることができる特別な場所である。特に子育て世代は、周囲への迷惑等を考慮して一般的な飲食店等に入りにくいと感じる場合があるため、身近な公園緑地に移動販売車等の開放的なサービスが定着すると、より魅力的な場所になる。



4 課題（重視する視点）

社会情勢の変化や本市のみどりを取り巻く現状、市民意見のほか、北海道みどりの基本方針などを踏まえ、次の視点を持ったみどりづくりが必要となっています。

第2次帯広市みどりの基本計画の策定に際して重視する視点

①公園緑地等の適切な保全

②市民と力を合わせたみどりづくり

③みどりの多様な活用

① 公園緑地等の適切な保全

少子高齢化・人口減少社会を見据え、これまでの公園緑地の整備などで得られたみどりや施設を適切に保全・管理し、みどりの質の向上をはかる必要があります。

② 市民と力を合わせたみどりづくり

みどりは、公園緑地、道路、学校などの公共施設、商店、個人宅の鉢植えや庭など、様々な場所にあります。市民一人ひとりがみどりの機能や役割を理解し、様々な人々が協力し、親しみ、楽しみながらみどりと向き合い、みどりをつくり、守り、育て、活用する取り組みが必要です。

③ みどりの多様な活用

これからのみどりには、温室効果ガスの吸収機能、健康活動の場やコミュニティ醸成の場としての機能、観光振興機能など、みどりが持つ多機能性をまちづくりに活かしていくことが期待されています。

みどりの多様な機能や、みどりと関わる楽しさなどを市民一人ひとりと共有し、様々な観点からみどりの活用をすすめる必要があります。